

優秀経営農林水産業者

部門	氏名（住所）	受賞理由
園芸 農産	株式会社 <small>あぐり</small> Agriすぎかわ 代表取締役 <small>すぎかわ まさと</small> 杉川 将登 （北栄町大谷）	<ul style="list-style-type: none"> 空き農地を活用して面積を拡大しており、令和3年度には鳥取型低コストハウス推進事業を活用し、低コストハウスでの西瓜栽培に先進的に取り組んでいる。 代表の将登氏は昭和58年就農以来40年にわたって野菜花き栽培に携わり、平成元年に地域で先進的にストック等の切り花を導入して、現在の大栄花き産地の礎を作った。 取締役を務める妻の一二美氏は平成11年に地元の若手女性農業者による「スマイルサークル」、平成30年に「とっとり農業女子ネットワーク～キラリ☆鳥取アグリジェンヌ～」を立ち上げ、女性視点での現場改善や経営参画を行うなど、県下の女性農業者の活躍を推進している。
水産	<small>げんろくすいさん</small> 現緑水産 株式会社 代表取締役 <small>ふなき げん</small> 舟木 現 （岩美町牧谷）	<ul style="list-style-type: none"> 平成6年から親戚の船に乗り沖合底曳網漁を開始。約20年現場で働き、平成29年に現緑水産株式会社を創設。長年の経験と漁業者間での情報交換を積極的に行い、漁場を探索。日々漁具の改良やメンテナンスを行い、県内底曳網漁においてトップクラスの水揚げ量を誇る。 コスト削減として、燃油対策事業の活用や漁場間移動時等の減速航行を実施することで経営の安定化を図っている。また魚体選別機を導入し、作業の効率化を図っている。 20代30代の従業員が半数以上を占め、安定した経営と従業員教育、妥協のない漁業に対する意識が、周囲の模範となっている。
畜産	<small>たなか りょうじ</small> 田中 亮治 （倉吉市国府）	<ul style="list-style-type: none"> 平成8年に親元就農し、平成16年に規模拡大を実施。拡大の際には新牛舎を知人の大工の協力を得ながら手作りで建設し、コストを削減した。平成20年に父から経営移譲され、現在、経産牛58頭、育成牛44頭を飼養。 自給飼料（とうもろこし）生産に力を入れており、令和6年にトラクターを更新し、11.5haまで面積を拡大した。全体飼料の1/3程度が自給飼料でまかなえている状況で、経営改善に役立っているほか、地域の耕作放棄地問題にも取り組んでいる。 近隣住民への配慮として、牛舎通路に添加剤を散布し、糞尿と一緒に堆肥化することで臭気対策を行っている。 乳牛管理について細霧装置による暑熱対策、分娩カメラ導入による牛の観察作業の省力化を行っている。加えて、性判別精液の活用により後継牛の安定確保を実施するとともに、和牛受精卵の活用により副産物収入につなげている。

部門	氏名（住所）	受賞理由
園芸	<p>はこぎ いさお 箱木 功 はこぎ かおり 箱木 芳</p> <p>（琴浦町法万）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収益性の高い品種（新甘泉、王秋）の高接ぎ更新や改植、極早生品種から晩生品種までリレー出荷できる栽培体系の確立、自家和合性品種（おさ二十世紀、秋栄）の導入やジョイント栽培への取組による省力化など、産地内でも先進的に取り組み、経営の安定化に努めている。 ・ 平成18年から園芸試験場果樹研究室と協力して、「王秋」のコルク状障害の発生要因と対策究明のため現地試験に取り組み、症状軽減に土壌改良が重要であることを解明。産地で先進的に深耕ロータリーを使った土壌改良を実施し、現在もコルク状障害のない大玉の王秋を出荷している。 ・ 功氏は琴浦梨生産部の指導部長として新規就農者への支援を行い、芳氏は県指導農業士として新規就農者・女性農業者の育成を行うなど、夫婦ともに地域農業振興に対して多大な功績と貢献がある。
農産園芸	<p>まだ ゆういちろう 馬田 雄一郎</p> <p>（大山町宮内）</p>	<p>2 農林水産大臣賞に記載</p>